4 財団の資金

財団は、ロータリアンやロータリーの支援者からの寄付によって支えられています。この寄付は、シェア・システムによって、補助金やプログラムの資金へと姿を変えます。

シェアを通じ、ロータリー年度末に、各地区の年次プログラム基金への寄付が2つの資金（50パーセントがWF［国際財団活動資金］、残りの50パーセントがDDF）に分けられ、3年後に使用されることになります。財団は、WFに充てられた額から、全ロータリー地区が利用できるグローバル補助金とパッケージ・グラントを支給します。地区は、DDF（地区財団活動資金）となった資金を補助金やプログラムへの参加に使用したり、ポリオ・プラスやロータリー平和センターなどに寄贈したりします。

お忘れなく

使用可能なDDFの金額は、使用年度の前年に、地区に通知されます。

3年の資金周期

ロータリー財団は、独特な3年の資金周期に従って運営されています。この周期により、地区が計画や参加者の選考を時間的余裕をもって行えると同時に、財団が寄付を投資し、その収益で管理運営費と寄付増進費を賄うことが可能となります。

例えば、2011-12年度の年次プログラム基金への寄付の50パーセントは、2014-15年度にDDF（地区財団活動資金）として使用されます。

2011-12年度	2012-13年度	2013-14年度	2014-15年度
寄付および投資	投資	投資	使用

地区財団活動資金（DDF）の計画

毎年、各地区にシェア・キット（シェア・システム報告書、管理委員会が承認したDDFオプション、寄贈書式を含む資料一式）が送られます。シェア・システム報告書には、次ロータリー年度に使用可能なDDFの金額が記載されています。

クラブのロータリアンが最も関心を寄せているロータリー財団補助金は何かを判断するのは、地区ロータリー財団委員会の責務です。これには、クラブに直接投票してもらったり、地区の月信を通じて意見を求めたり、そのほか地区に適した方法で行うことができます。地区がDDFをどのように使用するかの決定は、ガバナー、ガバナー・エレクト、ガバナー・ノミニー（既に選出されている場合）と相談した上で、地区ロータリー財団委員会が行います。地区ロータリー財団委員長は、DDFの配分を計画し、正確な記録を管理する責任があります。

地区ロータリー財団委員長とガバナーが、地区ロータリー財団委員会の決定に沿い、DDF使用を承認する署名を記入します。ロータリー財団は、補助金申請書が承認された後、もしくはDDFが寄贈された後に、その金額を地区のDDFアカウントから差し引きます。

シェアDDFオプション

どの地区でも、以下のオプションにDDFを寄贈できます。

- ポリオ・プラス
- WF（国際財団活動資金）
- 恒久基金
- ロータリー平和センター
- ほかの地区

試験地区でない地区は、以下のオプションにDDFを配分できます。

- マッチング・グラント
- 地区補助金
- GSE（研究グループ交換）の実施および追加助成金
- 国際親善奨学金

試験地区は、以下のオプションにDDFを配分できます。

- クラブまたは地区が立案するグローバル補助金
- 新地区補助金

オプションを選択する際には、以下の点に留意することが重要です。

- DDFは、ロータリー財団が承認した補助金またはプログラムのみに使用できます。
- 前年度から繰り越された未使用分DDFについて、8月に地区に通知されます。この未使用分は、現年度に使用できるDDF額に自動的に含まれます。
- 財団からのシェア・システム報告書には、承認された補助金（奨学金）のDDFのみが記載されます。
- プログラム年度中いつでも、DDF残高を確認するために「地区別のシェア使用状況報告書」を要請することができます。DDFの使用状況を正確に把握するには、この報告書に記載してある情報を使用してください。報告書には、承認された補助金（奨学金）のみが記載されます。

お忘れなく

未来の夢試験地区の場合、前年度に使用されなかったDDFの金額は、新地区補助金の上限である50パーセントの計算には含まれませんが、現年度のグローバル補助金または寄贈用として使用できます。

お忘れなく

シェア・コーディネーターへのお問い合わせは、Eメール（Share.mailbox@rotary.org）でご連絡ください。